

5 組の夫婦団員

大村 恵美子

東京バッハ合唱団には、創立以来、ご家族（夫婦・親子・兄弟姉妹）で参加される方々が、多くいらっしゃいました。創立 40 周年を迎える現在、それらの全部を記録してみるわけにはゆきませんが、現役で活躍される 5 組の方々だけでも、ご紹介したいと思います。入団順に、

1. 山下淑子 (A)、広之 (B)
2. 松尾文子 (S)、茂春 (B)
3. 森永孝子 (A)、毅彦 (B)
4. 室田千晶 (A)、悟 (B)
5. 片岡京子 (S)、武彦 (B)

1. 山下組 1962 年 9 月、当時明治大学の学生だった広之さんが、合唱団ができてすぐに入団。私の所属していた教会の青年会でお仲間だった方の弟さんだった。翌 63 年 6 月に入団された淑子さんと結婚され、団員結婚の第 1 号となる。新婚旅行は、合唱団の仙台演奏旅行を兼ねたもの。現在のお二人は、合唱団運営のすべてに献身的なご活躍。

2. 松尾組 1977 年 2 月に入団の茂春さんは、東京芸大楽理科出身の文子さんと結婚されて、お二人共に合唱団で縦横のご活躍を展開されるはずのところ、次々とお子さんに恵まれ (3 人)、ご住居も柏市で遠いこともあって、室田組のように子連れで参加というわけにはゆかなかった。しかし、毎年の野尻湖合宿にはご家族全員で参加されて、文子さんもソプラノの一員として出演、ミニコンサートでもファミリーアンサンブルが人気 No. 1 の呼び物となっている。

3. 森永組 1980 年 10 月、お嬢さん（現在・富重純子）のために、合唱団を検分に来られた毅彦氏が入団。その後、純子さんは伴奏ピアニストとしてドイツ演奏旅行でも好評を博した。1988 年 7 月、第 2 回ドイツ演奏旅行の直前に孝子さんも入団。とくにドイツ語に関わる分野で、このご家族の貢献は著しい。私の翻訳の仕事も、全面的にお世話になっている。

4. 室田組 1986 年 3 月、創立間もないころか

らの私たちの定演を聴いて来られた悟さんが入団。91 年 1 月に入団された千晶さんと結婚。現在お二人とも会社勤めをつづけられ、悠介君 (6 歳)、麻由ちゃん (1 歳) も土曜の練習に同行されて、人気の的となっている。私は、とくに、総合職をつづけられる千晶さんが、ぜひ同時代の女性のモデルとして、いまのご生活をやり遂げていただきたいものと、心から応援している。バッハの音楽が、大きな力となっていると言われることが、ありがたい。

5. 片岡組 今年 2001 年 5 月の定演を来聴なさって、その直後に揃って入団された、フレッシュなお二人だが、かつて国際キリスト教大学合唱団で鍛えられ、今でも OB コーラスにいらっしゃる技術の確かさで、目覚ましいご活躍ぶりである。またコンピューター関係も易々とこなされて、どちらかといえれば合理化とスピードに難の多いわが合唱団に、大きな支えをあたえてくださる。

さて、よその主宰者や指揮者では、よく一家中で参加されて、その統率力に敬服させられる例は多いが、私の場合、それほどゆめりこんでいるということもなく、九州在住の姉・恒松恭子が、5 月の定演にはしばしば参加、ドイツ演奏旅行にも 2 回加わった。大村健二は、仕事の都合がつくかぎり、協力してくれているが、テノールの一員としての参加も、たびたび抜けざるを得ない時期があった。2000 年に「バッハ・カンタータ 50 曲選」の出版が始まって以来というものは、生活の中心にこの仕事を据え、版下をコンピューターで作成するのも、彼ひとりの作業である。つまり、彼を失うと、この出版事業も、コスト上からも遂行不能となる。ぜひ全 50 曲の完成まで、故障のないように祈るばかりである。

以上が、夫婦団員ばかりをとりあげてみた私たちの合唱団の実体ですが、これだけを見ても、ずいぶん多くの家庭の生活をまきこんで、活動を 40 年もの長い間つづけて来たもののだとの実感が、切実に迫ります。

創立当時、学生や新人社会人だった第 1 期団員た

ちも、定年を迎え、お孫さんに目を細める年代に入ってきました。日本全体の少子高齢化は、この小さな団体においても顕著ですが、さいわいバッハの音楽は、人生の深みを味わえば味わうほど、身近なものとなってくるような音楽ではないでしょうか。60代、70代になっても、歌いつづけ、団体に所属して生きる人生など、想像していた人は、きっと少なかったことでしょう。

しかし、定年後を考えてみても、20年、30年と生きるのが現在です。ぜひ、心のよりどころを据えて、心身を惜しまないで燃焼させる場をつくってゆくことこそ、私たちの切実な課題だと思います。息あるものすべて、地にある喜びと感謝の歌で、邪悪な世の力を吹き飛ばしてゆきましょう。歌って人々に呼びかけるかぎり、私たちは人生の傍観者にとどまることはないのです。いつの日にも希望を！

ワルブレヒトご夫妻との歓送夕食会

加藤 剛男（団員）

東京バッハ合唱団の演奏に、15年間ヴィオラ奏者として協演してくださったゲルハルト・ワルブレヒト氏が、ドイツへお帰りになられることになりました。新日本フィルをめめでたく定年退職され、このたびドレスデン・フィルハーモニーとの新しい契約が決まり、急遽12月早々にドイツに出発されることになりました。

東京バッハ合唱団の定演に出演してくださるワルブレヒト氏の演奏は、お一人加わられただけでオーケストラ・合唱全体に好影響を与えるものでした。いつも背後からの演奏しか拝見できませんでしたが、バッハのカンタータ、オラトリオ、ミサ曲、受難曲等を演奏する時には、身体を椅子から半分浮かせながら、表情豊かに、まさにダンスをするように演奏するのです。堅苦しいバッハが一举に、生き生きしたバッハによみがえるのです。それは、4年前にドイツ演奏旅行で、ベルリン・シンフォニー・オーケストラとの協演で経験した、あの躍動感あふれる演奏と共通したものでした。弦のやわらかさ、表情の豊かさ、リズム感の良さ、清澄な音、心の込め方、音楽の自然な高まり、そこにはバッハの心がみなぎっているのです。オケ合わせの時にワルブレヒト氏は、よくオケにも合唱にも、フレージング、言葉の意味等ご自分のバッハ観を進言されました。バッハの真

髓は、ここにあるのかと、はっと気付かされることがよくありました。

この6月には、ヴィオラ奏者ワルブレヒト氏が、バッハのカンタータ106番（“神の時は いともただし”）を、品川教会で指揮をされました。成城合唱団の演奏に東京バッハ合唱団も加わって、演奏させていただきました。「39年間バッハのみを歌っていらっしゃる東京バッハ合唱団の皆さんに参加していただいて、満足な演奏ができました」とワルブレヒト氏におっしゃっていただきました。指揮者のワルブレヒト氏は、カンタータ106番をスケールの大きな、骨格の太い、厳然としたバッハにまとめられました。

ワルブレヒトご夫妻への感謝を何とか表したいと、10月6日（土）の合唱団の練習に、ご夫妻をお招きし、クリスマス・オラトリオより23番のコラール（“御使いとともに 我らほめうたわん”）、ロ短調ミサ曲より、Dona nobis pacem（“我らに平和を与えたまえ”）を演奏いたしました。ご夫妻とも、心から喜んでくださいました。その後、桜新町のレストラン「ロータスガーデン」で、ご夫妻を中心として、大村恵美子先生ご夫妻、定演でいつも弦楽器奏者のお世話をいただいているヴィオラの松井啓子さん、大阪から駆けつけてくださったテノールの阪根隆司さん、団員の方々15名で歓送夕食会を開きました。

バッハと同じアイゼナッハで生れ、アイゼナッハで育ち、9歳から教会でオルガンを弾き、兄弟姉妹9人の家族で、ご自分はそのまん中。バッハと同じく音楽家も多く輩出していらっしゃる。お母様より音楽の影響を受けられたとのこと。

日本では15年間演奏活動をする中で、9年前にはナナ（奈々）さんを音楽の勉強に、6年前にはフレッド（洋）さんを神学、3年前にはヴィオラ（すみれ）さんを比較文化・言語学の勉強にと、それぞれドイツに送り出されました。お仕事と子育てを立派に成しとげられて、このたびは永年の夢であったドレスデンに住まわれることになりました。

ドレスデン・フィルハーモニーのメンバーとして、今後はドレスデン・クロイツコーアとの協演もされるし、また時々オケのメンバーとして、来日もされるということです。ワルブレヒト氏ご一家と別れるのは、まことに淋しいことですが、でもこれからの新しいご活躍を考えますと、心からお喜び申しあげ、未来に視点をおきたいものです。いつかまた、日本であるいはドイツでお会いすることを楽しみにして、夕食会はお話が尽きませんでした。

後援会 会計報告

2001年4月～6月

(単位・円)

収入		361,000
内訳 後援会費	231,000	
寄付	130,000	
支出		433,926
内訳 事務局費補助	210,000	
渉外費	18,000	
通信費	95,889	
事務費	110,037	
雑費	0	
差引		△72,926
前期より		△57,559
累計		△130,485

【継続会員】(敬称略、以下同様)

福中 脩、稲葉博子、野村勝時、勝沼 淳、牧 恵美子、渡辺さち子、椿 信子、星野弥生、酒井暁子、内田美枝子、市川由紀子、森泉百合子、大塚剛宏、出口禎子、荒井せつ子

【新入会員】

阿部 啓、柳沢 清

【寄付】

黒田みつ子、匿名氏、国吉三郎、横河マリ子

2001年7月～9月

(単位・円)

収入		344,000
内訳 後援会費	324,000	
寄付	20,000	
支出		376,515
内訳 事務局費補助	210,000	
渉外費	15,000	
通信費	90,571	
事務費	60,944	
雑費	0	
差引		△32,515
前期より		△130,485
累計		△163,000

【継続会員】

小杉茂雄、鈴木玲子、宮田親平、斎藤繁儀、宮崎恭子、萩生羊子、高村明子、渡辺美恵子、橋本みどり、高野京子、松井啓子、井原邇子、丸山真人、芳人、務台孝尚、鈴木 靖、丹羽 茂、荻津雅夫、松原典子、黒田みつ子、青田 健、石田美保子、加藤剛男・よし子

【新入会員】

中澤富士子、三浦 隆

【寄付】

山本栄子、秀村千穂子

【切手多数】

瀬底恵子、黒沼俊子

【バザー提供品】

中澤富士子、原田知子

おたより

横河 マリ子 (後援会員)

いつも月報をお送りいただき、また定期演奏会の御招待までいただきまして、まことに嬉しく、厚く御礼を申しあげます。

来年の創立40周年まで元気で居りましたら、必ずお祝いにお伺いしたく存じます。何卒お元気で、いつまでもすばらしいお仕事をお続けくださいますようお願い申し上げます。

三浦 隆 (後援会員)

10月より、教団大船渡教会において「J.S. バッハの世界」と題して、一般市民を対象にレクチャーコンサートを開くことになりました。浅学菲才の小生が主催するものですが、今後アドヴァイス等いただければ幸いです。(CD鑑賞と小生によるあやしげな解説がメインになります。)

渡辺 雅子 (聴衆)

私の大好きな「東京バッハ合唱団」、今年も聴きに行くつもりでございました。

夫が交通事故にあい、命には別状なく、とても喜んだのですが、私どもの家の生活が一変してしまいました。交通事故は心にも大きな影響を与えるということを知りました。今までのように、上京して「バッハ合唱団」の演奏を拝聴できそうになくなってしまいました。

…私には息子を亡くすという不幸がありました。悲しくて泣いているとき、「東京バッハ合唱団」の存在を新聞(朝日新聞)で知り、演奏を聴きに行きました。

演奏は、まるで私のために、私の悲しみをいやしてくれるような美しいものでした。私は客席で涙を流しながら聴いておりました。どのコンサートより「東京バッハ合唱団」の歌声は私の心にしみ入りました。それは「祈り」の音楽だからだと気がつきました。私は音楽を聴きながら、祈っている自分を発見しました。

美しい音楽をありがとうございました。感謝をこめ、お礼申し上げます。

死の報復連鎖を止めよ！

飢え、寒さ、放浪へと追いやる権利は誰にあるのか？



北フランス・アミアンの大聖堂内にある「泣く天使」L' Ange pleureur.
ニコラ・ブラッセ Nicolas Blasset 作, 1628 年.
時代は三十年戦争 (1618-48) の最中, されこうべに肘をつき, 世の悲惨
に途方に暮れて泣く小天使. 2000 年秋以来, この姿が目前に浮かびあがっ
て離れなくなりました. (大村恵美子)